

大学院入試経験談

2017院進Bクラス 许振奋

2011年9月—2015年7月 中南財経政法大学法学院(法学学士学位)

2013年2月—2015年7月 中南財経政法大学金融学院(経済学学士学位)

2016年10月—2018年3月 亜細亜友之会外語学院

来日目的は人それぞれだと思いますが、私の場合は勢いで日本にきました。動機より、目の前のことをお懸命やり遂げるほうが重要だと私は思います。自分の入試経験を後輩たちと共有できるのを光栄に思います。私は法律専攻で、自分の経験が他の専攻にも通用するかは定かではないので、皆さんの考えと違う場合、あらかじめご了承願います。

1. 日本語

来日前、趣味で日本語を半年間独学したことがあります。試験に合格するだけが目的で日本語を習っていたため、N2級に合格したものの、日本語能力のベースを築くことができませんでした。日本に来たばかりの頃、『みんなの日本語』初級レベルの日本語さえ習得できていませんでした。亜細亜友之会外語学院での勉強を通して、自分の足りない点に気づきました。文系一類の専攻を志望するのであれば、英語の資格を取得しておくことをすすめられることが多いでしょう。各大学の募集要項を自分なりに調べたところ、専攻によつては、必ず英語の資格を提出しないとならないというわけではありません。法律専攻はその一例です。そのため、各大学の募集要項の内容を早めに確認し、自分に合う学習プランを立てる必要があります。英語資格の提出が必須ではない場合、日本語のレベル上げに専念したほうが効率的ではないかと私は思います。普段授業の様子を振り返って感じたのは、多くの学生がミスを犯すのが恥ずかしく、話す練習がなかなかはかどらないといつことでした。個人的に思うには、せっかく日本に留学しに来たのだから、ミスを恐れずにたくさん話す練習をしたほうが良いでしょう。スピーキングの上達を目指す方にはシャドーイングという方法がおすすめです。練習パートナーがいない、もしくは言葉を学ぶ環境が整っていない状況において、シャドーイングはとても有効です。教材に関しては、『SHADOWING 日本語を話そう！』がおすすめです。

2. 専攻ごとの試験と面接

学校で法律を専攻する学生が私一人のみでした。相談に乗ってくださる先輩がいなく、自力で入試準備をやるしかありませんでした。経済面の余裕がある方は、塾の申し込みをし、そこで同じ専攻の先輩たちと交流を深め、どのような準備をしたら良いかを聞くと良いでしょう。また、指導教授と直接コンタクトをとるのも一つの方法です。筆記試験の前、各大学の過去問題集に目を通し、出題範囲と傾向をつかむことが重要です。過去問には回答例がついていません。自分で解いてみて、学院の先生方に文法や論理性のチェックをお願いしてみると良いでしょう。

面接に関しては、ポイントが2点あります。1点目は、自分の研究計画書の内容をきちんと理解することです。研究計画書をいくつのパートに分け、それぞれの要約を整理しておくと良いでしょう。例えば、研究内容の要約、動機、研究方法、及び聞かれそうな質問などです。面接の前にこれらの回答を用意し、暗記すると良いでしょう。2点目は研究意欲です。研究動機の部分は、自分の実情を踏まえ、プロの大澤先生と宮原先生に相談してみてください。質問に答えるとき、「研究のため」という点を中心に回答を展開していくと良いでしょう。自分の研究したいことと指導教授の研究テーマ、もしくは自分の研究と大学の知名度の間で選択を迫られたとき、自分の研究テーマを選んでください。

3. 日本語学校—亜細亜友之会外語学院—

亜細亜友之会外語学院の先生方のご指導のおかげで、私は順調に進学することができました。学院長や石川先生をはじめ、すべての先生が普段学生たちに良いマナーを守らせようと努力し続けてきました。それがマナーを重んじる慣習を築き上げた所以でもあります。受験で3回も落ちた私を、学院長と石川先生が優しく励ました。学院長がわざわざお時間を作つて指導教授宛てのメールの添削をしてくださいました。学院の先生方がいなければ、私はすぐに立ち直れないと思います。学生に寄り添い、学生たちのことをここまで考えてくださる先生はおそらく亜細亜友之会外語学院以外はないでしょう。

担任の大澤先生と研究計画書のチェック担当の宮原先生のおふた方は、いつも熱心に私の質問に答えてくださいました。日本に来たばかりの頃の担任の小野先生は、私のリクエストに快く応じてくださつて、放課後の時間を割いてスピーキングの練習に付き合つてくださいました。私と同じく法律を専攻していた趙先生と中国語で専攻のことを議論できることは私にとっての救いでした。先生方のサポートのおかげで、私の学業成績が徐々に良くなり、最終的に慶應義塾大学大学院に合格することができました。この場を借りて進学に励んでいる後輩たちにエールを送りたいです。